

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171400118		
法人名	社会福祉法人 慈恵会		
事業所名	さわやかグループホームみたけ		
所在地	岐阜県可児郡御嵩町井尻65番地の1		
自己評価作成日	平成28年1月25日	評価結果市町村受理日	平成28年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JiyosyoCd=2171400118-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成28年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホーム付近は田園風景の自然豊かな山や田畑の中で、併設している特別養護老人ホーム、養護老人ホーム、デイサービスセンターと共に建立している。地域のボランティアも顔馴染みとなって頻りに来所され、施設の利用者同士も顔馴染みとなって交流があり、普段の生活には張り合いがみられ尊厳ある生き方を重視し、本人主体の生活に心掛けている。法人からは医療サービスの支援を受ける事ができ、多種多様な豊かな行事参加が気分転換や体験になっている。木造平屋建ての家庭的な内装の中で、普通の暮らしができるよう、くつろぎのある利用者サイドに立った生活を心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の支援目標は、相手の立場に立ち、思いやりの心で、常に地域との関係づくりを追求し、利用者個々の能力に応じて、自立できるように支援をしている。職員は、専門職として、日々研鑽を重ね、サービスの質の向上を目指し、気づきやアイデアを提案し、活力ある職場環境を築いている。隣接施設内に、地域ボランティアの支援で運営する喫茶「こころ」で、利用者同士や地域の高齢者と交流をしている。今後は、法人内で連携し、地域高齢者の見守り、御用伺いなども計画している。運営者は、職員の健康管理や仕事と家庭の両立を支え、メンタル面を大切にしながら、働きがいのある職場づくりを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての理念を基に管理者・職員は日常の業務に反映できるよう努めている。グループホーム内の本年度目標は「個性のある対応」を明示しており実践に繋げている。法人全体で毎週月曜日の朝礼で5つの理念を唱和している。	理念は5項目あり、今年は「個性のある対応」を実践目標に掲げている。管理者・職員は、全項目を朝礼で唱和し、利用者が地域と密着して自立した生活が送れるように、思いやりの心で支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の食事会や御嵩幼稚園・上之郷保育園との交流がある。理美容・折り紙のボランティアの来所があり、散髪と季節の折り紙作りを行っている。夏まつりは地域住民との交流の場となっており、月に一回、利用者と共に周辺の清掃活動を行っている。	地域の中・高校生の職場体験の場を提供している。地元秋祭りでは、神輿の休憩所を提供したり、近隣の清掃活動を毎月行っている。地域住民対象に、認知症や介護の相談窓口を設けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的交流するボランティアや散歩時に挨拶を交わしたり、作物のおすそ分けを頂いたり、ご利用者と関わりを理解していただくように努めている。御嵩町高齢福祉課の「ケアリンク」の会員として徘徊高齢者SOSネットワーク「ほっとねっと」の活動を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの様子や取り組みの内容、法人のアンケートの結果報告、情報収集の場としている。情報提供や意見交換では地域の住民としての要望など話される。また運営推進委員の方々と利用者と共に昼食会や喫茶ところを通して交流を図っている。	会議は隔月に開き、利用者の現況を報告し、行事予定や地域の高齢者の課題などで意見を交わしている。家族からは、利用者の満たされた生活に、感謝の言葉があり、職員の人員補充でも意見が出ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議では行政担当者の出席があり、ホームの現状の報告報告を行っている。地域包括支援センター(役場内)は法人施設職員が出向しており、情報の共有をしている。ケアプラン点検ではチーム取組んだ改善点を評価された。	運営推進会議出席の行政担当者、運営の実情を報告し、また、介護保険の現状や今後の動向などで説明を受けている。地域包括支援センターに、法人の職員が出向き、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人には「身体拘束マニュアル」があり、職員は、研修に参加し、共有意識を図ると共に連携、相談にて拘束のないケアに取り組んでいる。玄関施錠は夜勤が安全確保できない時以外は自由に出入りできるように開放している。エリア研修では虐待をテーマに個人・グループワークを行い業務に活かした。	身体拘束ゼロのマニュアルを基に、職員研修を行い、拘束をしないケアを徹底している。心理的にも行動を束縛しないよう取り組んでいる。日中は、玄関の施錠はなく、自由な行動を見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の各研修や勉強会、居宅介護支援事業主催の研修会(みたけケアリンク)に参加し、職員に周知している。		

岐阜県 さわやかグループホームみたけ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は介護支援専門員更新研修で成年後見制度について講習を受けた。ホームには後見制度を利用しているご利用者が1名いる事で職員に説明して周知し、学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書の取り交わしについては、事前面接・入所時の契約、契約内容の変更時にも十分な説明を行っている。ご家族からの疑問な点は質問して頂き理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時に意見、要望を聞き管理者、職員は積極的に関わり、職員会議で意見、改善策を考慮している。法人内の独自のアンケート調査を実施し、改善策を提示、実行している。運営推進委員会、家族会においても要望を聞いて意見を反映している。	家族の訪問時や家族会で、意見や要望を把握している。さらに、事業所独自の家族アンケート調査を実施し、その結果を分析・検討を加え、改善につなげている。ホーム通信で、生活の様子を掲載し、相互理解を深めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝夕の申し送り・毎月の職員会議の中で意見・提案・ケアの気づきを聞くよう意見交換を行っている。エリア会議の議事録の回覧、統一が必要な事項についてはグループホーム向上委員会に意見・疑問・提案を持ち寄り討議している。	職員からは、意見や提案のできる環境ができています。日々の気づきやケアの改善点を提案し、一人ひとりに適した支援に反映させている。職員の発案で、絵本作りやカルタ遊び、百人一首を取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場環境の充実として「岐阜県子育て支援企業」として登録を行い、定時には退社できるよう業務を見直し、時間外手当を30分から1分単位でつける事で働く意欲と定時に帰りやすい雰囲気を作り、仕事のストレスの軽減を行った。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修委員会を構築し、新人研修、中堅研修等の修得段階に応じてコースを設定している。外部研修、法人研修の取り組みには、勤務表の調整を行い参加を可能にするよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当法人のグループホーム(7箇所)は、向上委員会・臨時の向上委員会にて、情報交換や学習会・困った事例を持ち寄り検討会を行っている。みたけケアリンクの会員として、定期的な勉強会や事例検討会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用の相談があった時は、担当ケアマネージャーからの情報を基に家族や本人(了解の基)に面接して心身の状況や思いを傾聴し、アセスメントを取りながら不安や要望等を把握し、安心確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の悩み、環境を把握して、ご本人、ご家族の望むような支援に努めます。入居に至る経緯と本人・家族の求めている意向を理解し、ホームとしての対応・役割について事前に話し合う機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の立場に立ち、可能な限り柔軟な対応を行い、困っている事要望を傾聴して、今必要な援助やサービスは何かを見極めて地域に向けたサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の生活歴や環境等の情報を把握、お互い協働しながら生活を共に支え合える関係作りを築いて、利用者自身の出来る事・役割を持つ事、楽しみがあり穏やかな生活ができるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会、行事の参加を促し、毎月のお便りでは、日頃の様子や本人の思いなどを伝えている。ご家族との外出、年末・年始の外泊・緊急時以外の受診の対応等は、ご利用者とご家族が希薄な関係にならないよう連絡調整を心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設のデイサービスの利用者、グループホーム主催の月2回の喫茶店「こころ」を利用する馴染みの利用者との交流を行っている。また、家族の協力の元、いきつけの美容院の利用、OB会の参加でなじみの関係の継続を支援している。	親戚や知人の訪問を受け、安心してゆっくりくつろぐ場を提供している。デイサービスに出かけ、友人・知人に会ったり、隣接の喫茶店で交流をしている。以前関わっていた団体OB会の同僚が迎えに来て、一緒に外出をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事やレクの内容によって、参加する方が違うので、お互いが声をかけあう姿もあり内容によって席を替わっていただいている。散歩は歩行状態をみながら少人数で行っている。日常の作業(洗濯たたみ・ビニル袋たたみ等)の輪にほぼ全員が加わっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時の連絡調整、情報提供、相談援助を行いながら、退所先でも円滑に支援が受けられるよう助言支援している。行事や夏祭りなどで本人や家族に出会う時もあり、様子をお聞きし困り事がないかの把握に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の意思を言われる方は意思を尊重し、伝えられない方はこれまでの生活歴や性格などから家族の情報を元に普段のつづやきやしぐさなどから意向の把握に努めている。	入居前のアセスメントで、本人の情報を把握し、知り得た情報は、職員間で共有をしている。入居後は、会話や表情、しぐさ、つぶやきなどから、思いや意向を把握し、希望に沿った暮らし方に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の日常生活の生活歴など情報を得て本人の意向に近づけるよう取り組んでいる。入居後は利用者、家族、友人からの情報提供に努めて、情報はフェイスシートなどを利用し、職員が共有できる様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今迄の生活習慣、1人1人のやりたい事や出来る事の把握に努め、体調や体力に応じて、職員間で統一した支援ができる様に心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	今までの生活習慣を大切に生活状況などをアセスメントし、ご本人・ご家族の意向を取り入れ、体調の変化や認知症の進行把握しながら生活課題としてチームで取り組んでいる。	担当職員を中心に、本人・家族、夜勤職員の意見を集約している。ケア会議で、介護記録を参考に、関係者で話し合い、介護計画を作成している。利用者の体力を維持し、楽しみのある暮らしに反映させている。	法人内の老人施設で「家族カンファレンス」を定期的開催をしている。それを参考に、グループホームでの導入に期待をしたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や様子などをちょうじゅの記録に残して、排便は個別の表にて把握に努め、ケアチェック表、モニタリング評価表にて本人の状況、実践されたことについて吟味し、介護支援計画の見直し、評価の実施に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の福祉施設内の機能を活かし、行事参加、設備の共有がいつでも可能である。利用者同士も交流して行き来している。家族や友人の協力により、いきつけの美容院・OB会の参加が出来ている。		

岐阜県 さわやかグループホームみたけ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域に向けて高齢者の行事の参加にて楽しみのある交流、定着したボランティア(折り紙、習字、歌、理美容等)との交流、地元の友人の訪問、幼稚園との交流を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医への受診時は、入居からの情報を提供し、受診・通院の協力をご家族に依頼している。事情により外来受診ができない場合は、職員の同行でホーム協力医のかかりつけ医にて診察、薬の処方、訪問歯科と十分な連携体制をとっている。	これまでのかかりつけ医の利用を継続している。通院は、家族が同行し、事情がある場合や緊急時には、家族と連携し、事業所で対応をしている。協力医と、かかりつけ医との連携を密に、適切な医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康管理や状態変化に応じた支援を行い、看護について併設事業所の看護師との連携を取っている。受診時には、状況をサマリーにて報告したり、実際に職員が立会って指導を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の担当ソーシャルワーカー、主治医、看護師と連携をとっている。入院時は定期的に見舞うようにして家族と共に情報交換しながら退院の支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時には事業所での方針・出来る対応を説明し、病状が重度化・認知症のが進行した時など、利用者にとって1番より良い方法を選択できるよう施設長、主治医、生活相談員を交えて、今後の対応方向性について相談を行っている。	契約時に、重度化・終末期の方針を、本人・家族に説明し、同意を得ている。段階的に、家族と関係者で十分に話し合い、方針を共有し、よりよい選択ができるように支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、1回/2年に救命救急講習に参加、AED講習を受けて職員は対応できるようにしている。利用者の急変、事故発生時の対応マニュアルがある。夜間においては緊急時対応を周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、防災訓練を年2回昼と夜の想定で利用者と共に通報、避難、消化訓練を行っている。災害に備え食料、飲料水、防火頭巾を設置してある。対応マニュアルや緊急時の連絡方法を明確にして周知している。	火災訓練を、消防署立ち会いの下、夜間想定を含めて実施をしている。関係機関への通報、避難誘導、職員体制などを確認している。地域とは、協力体制を築き、水害対応は、過去の実体験から学んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室にいる時はプライベートの時間とし、様子を見ながらレクなどお誘いしている。トイレ誘導や入浴はプライバシーの確保を徹底している。	利用者は人生の先輩であり、地域の貢献者であることを職員が意識し、尊厳ある、その人らしい暮らしを支援している。言葉かけは、自尊心に配慮をし、ゆとりを持ち、優しく、ゆったりと、利用者の心が安まるように対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日課は気分に参加したくない時は休んでいただいたり、家事やレクなどは意思を確認している。、自分の意思を充分に言えない方は独り言や行動から気持ちを観察し働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりの1日のペースを大切にしながら興味のあることをご利用者サイドで楽しんで頂けるよう支援している。朝のお参りでは心経を唱えて、出来る限り本人の希望に添えるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服は利用者が選択もしくは職員の付き添いにて更衣されている。理美容は2名が行きつけの美容院に家族の協力の元出かけている。衣類等は家族からの協力で差し入れにて備えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	母体法人の栄養士が栄養管理を行い、月メニューには誕生日食、全国の郷土料理、手作りメニュー等があり、調理・配膳の段階から参加している事で家庭の雰囲気が保たれている。	食事は、職員の手作りで提供している。食事の準備や片付けなどは、自分のできることを自発的に手伝っている。職員は交代で、同じ食事を味わい、家庭的な雰囲気で、楽しい時間を共に過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量の制限の必要な方は現在はいない為、栄養バランス、習慣を大切にして支援している。食事量の確認、おやつ時の水分確保、体重管理を行って、1人ひとりの状況に応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声かけ・見守りを行い、夜間は義歯洗浄剤を使用している。1名は義歯を作ったばかりで慣れていない為、義歯の紛失に注意している。夜間は義歯洗浄液につけている。		

岐阜県 さわやかグループホームみたけ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄リズムの把握に努め、定期的な声かけで失禁の回数の減少につながっている。介助の必要な方は、プライバシーに配慮しながら対応をしている。夜間のパッドは家族に相談の元、種類を選択し利用者の睡眠を優先している。	個々の排泄パターンを把握し、声かけ誘導で、排泄の自立を支援している。適切な支援で、布パンツ、または、安心パンツを使用している。夜はパッドを選択し、おむつの使用量を削減している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックにより個々の排便リズムを把握し、飲食等の摂取量や運動・腹部マッサージ・センナ茶により自然排便が来ている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	季節に応じて、毎日が1日おきの入浴を行っている。準備の段階から一緒に行っている。拒否のある方は前は0日でしたが、明日はどうですか？と意向をお聞きし、希望の時間に入浴出来るよう業務内容を変更して対応した。	入浴は、個浴でゆったりと、見守り介助で希望に沿った対応をしている。職員との会話を楽しむ場でもある。拒否の人には、促し方を工夫し、普通に入浴できるように、心地よい入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室には馴染みの物品や家族の写真があり、安心して過ごせる空間で、1人静かに過ごされ時もあり、昼食後に居室でお昼寝をされる方もみえ職員は居室の様子を見守ります。夜間は馴染みの寝具にて安眠されています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋ファイルは常に最新に更新されており、確認できる様になっている。服薬時は用法、用量等を確認して誤薬防止を図るようダブルチェックを行っている。往診受診時、看護記録に状況を記載し情報の共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や好みを理解して、日常生活の中で役割作りをしている。居室の掃除、洗濯たたみ、朝のお参り、個々に適したレクリエーション等で気分転換をしている。季節に応じた体験型の行事を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所の神社や施設内の観音様近辺までの散歩は日課になっている。天気や体調に配慮しながら、季節に応じた行事で少し遠方の外出、少人数での買い物外出・地域サロンの参加等の外出支援をしている。また、家族の協力で喫茶店や日赤OB会などの外出を行うことができている。	個々に合わせ、近隣の散歩と、敷地内を車椅子で外出をしている。希望者で、買い物や地域サロン、ドライブなどに出かけ、年間では、桜見物や花公園などへ、家族と協力して外出支援をしている。	

岐阜県 さわやかグループホームみたけ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の協力を得て少額のお金を預かり、個人ごとに管理している。希望に応じて外出時の喫茶店や買い物時に使うことができる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて電話や手紙を出せるようになってきている。入居している事をすぐに忘れてしまう方には、家族さんより写真入りの手紙を壁に貼り安心にとつながっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やホールには行事や普段の写真・作品を展示している。リビングには季節の花、観葉植物があり、毎日のお参りの仏花を居間に供えたりしている。廊下の窓際ではベンチに座り、ひなたぼっこを兼ねて談笑して過ごされている。	共用の間は、天井が高く、日当たりがよい。居間や廊下の要所に、寛げるソファと空調器を置いている。窓からの眺めもよく、季節の花や観葉植物、手づくり作品、ことわざ集などを飾り、利用者が居心地よく過ごせる環境にある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一緒に行うレクや家事の時以外に、廊下のソファで少人数でくつろいだり、一人部屋で日記を書いたり、家族が持参された書籍を読んだり、ご主人・息子さんの写真を見ながらお経を唱えるなどプライベートの時間を尊重している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には生活歴を感じる、馴染みの寝具、机、タンスが設置されている。家族や孫の写真、ご利用者の手作りの作品が飾られている。物がある事で不穩になる利用者の方は家族に説明のちに安全な部屋作りに努めている。	居室には、介護用ベッド・洗面台・押し入れを備えている。使い慣れた、椅子、鏡、手づくり作品、家族の写真、賞状などを飾り、一人ひとりの好みに合わせ、安全に配慮をした居室づくりを工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ハンディ掃除機でコードを気にすることなく掃除していただいている。洗濯干しはホールから見える位置にあり、自分から洗濯干しを申し出る利用者もあり、立位が不安定な方は椅子に座って洗濯ものを取り出せるようカゴの位置を工夫して行っている。		